

CUBAPON ニュース

日本キューバ連帯委員会

<http://ifcc.1985.com/cubapon.htm> 郵便振込口座 00170-2-195919

NO38

2011年
2月

東京都新宿区山吹町333

辻ビル405 IFCC気付

TEL: 03-3268-4387

FAX: 03-3268-6079

E-mail: jvccpf@mail.plala.or.jp

「キューバ(青年の島)稲作支援プロジェクト」の活動がスタートしました。

◆昨年11月、第14回キューバ友好訪問団が催行されました。

今回は、キューバ共産党から招待されたクバポン代表委員の又市征治参議院議員を団長に10名の参加で11月21日から実施されました。

訪問目的の一つが、米作り支援を早急に具体化し実施するために現地との摺り合わせを行うことでしたので、ハバナに到着後、そのまま国内線で青年の島に移動しました。

翌日早朝より現地日本人会の宮沢会長をはじめ、稲作事業に取り組む予定のアルベルト・ハンザワさん他3名の日系人と地区共産党幹部の案内で、フィンカ・ア



ブラ博物館とモデロ監獄跡を見学 現地稲作事業者の一人日系3世アルベルト・ハンザワさんの実家で、ご家族と一緒に(青年の島)、午後に稲作が行われるシロ・レドンド地区を視察しました。ハンザワさんからは、昨年度の試験的栽培結果について説明を受けました。詳細については菊田団員が2日間島に滞在し、検討協議することとして、他の団員はハバナに戻りました。

3日目は、又市団長と川村団員は招待日程による各組織での会談を2日間行うためハバナに残り、他のメンバーは、シエンフェゴス、トリニダー、サンタクララの遺跡や博物館の見学、および日本語同行ガイドによるキューバの歴史文化社会等の詳しい解説を受けながら、各所でキューバの現状を見聞してきました。

5日目は、全員でCTCとICPの本部を表敬訪問し、夜には是永宅で、関係者を招待して会食会を行いました。団員の中野さんから丸木美術館の原爆図書の贈呈があり、キューバでの関心の高さを再認識しました。

最終日、アレイダ・ゲバラさんからゲバラ研究所・博物館を案内してもらい、キューバ・フェスティバル実行委員会からの支援金と物資を贈呈しました。

◆“困窮のユートピア”からの脱却を！「稲作支援プロジェクト」の立ち上げとカンパ要請

2008年にキューバにおいて米作り支援のための本格的調査を行ってから何度かの調査訪問を経て、このたびキューバと日本に「稲作支援プロジェクト」が成立しました。

キューバの主食である米の自給率はおよそ30%で、後は輸入に頼っています。08年のハリケーン被害の影響とアメリカ発の世界経済危機によって、現在も厳しい経済状況が続いています。政府はここ数年来、農業政策を重視して、米をはじめ農産物の増産を目指しているのですが、思うように進んでいないのが現状です。とりわけ、青年の島に対して、稲作については農務省からの援助があまり期待できない状況の中、現地日系人を中心に稲作の推進と発展のためにプロジェクトを立ち上げました。しかし、この現地プロジェクト(3年計画)には日本(クバポン)からの資金援助と技術指導なくしては実行することができません。(詳しくは報告書『経済封鎖下のカリブの社会主義XⅢ』参照)

クバポンでは、4月までに灌水用のポンプ・ホース2台を現地にする手続きを取りました。今後も現地での稲作事業推進のために、ソフト面(農業技術講習や研修、現地指導など)の支援や現地で不足している物品資金の提供が必要です。今回のプロジェクトは日系人50世帯が中心になって行いますが、この「稲作の発展と商品化達成のあかつきには

コミュニティ住民1万2千人が間接的プロジェクトの恩恵を受ける」（現地プロジェクト計画書より）こととなります。クバポンは最低300万円の基金を準備する壮大なプロジェクトになりますが、皆様の助言とお力添えを得て、何とか成功させたいと思います。

カンパにつきましては、郵便振替用紙を同封しましたので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

◆「キューバ稲作支援訪問団」のご案内

上記のプロジェクトに関連して、急きょ「実施のための訪問団」を編成して、青年の島へ行くことになりました。

①4月23日（土）～

青年の島（3泊）田植えの指導及び協同作業を含む。ハバナ2泊旧市街などの見学。

詳細は、日本キューバ連帯委員会、IFCC気付まで

②なお、11月下旬に半年後の稲作事業の経過視察を組み込んで、「第15回友好訪問団」を催行する予定です。詳細は、7月ごろ発表となります。

◆第14回キューバ友好訪問団の報告集『経済封鎖下を生きるカリブの社会主義XIII』発行へ

（頒布価800円、送料込）3月に発行。訪問先での詳しい報告と資料を掲載していますので、是非ご注文の上ご一読ください。

お知らせ

クバポン協賛のイベント「吉田太郎氏の講演とドス・ソネス・デ・コラソネスの演奏」が行われます。

日時：6月7日（土）午後1時～4時

場所：東部東上線「北坂戸駅」前

坂戸市文化施設「オルモ」ホール

入場料：1500円

5人の解放を！ 不正に終止符を！



第6回 オルギン会議報告

「第6回5人の英雄の解放を求める反テロ国際会議」はキューバ東部に位置するオルギン州にて11月18日から20日まで3日間の日程で開催され、CUBAPONから1名（村上久美子／福島）が参加しました。

集会前日、早朝6時にハバナのICAP本部に集合し、大型バスを連ね13時間に及ぶ大行軍でオルギン州に向かいました。途中の州のICAP事務所に手作りの昼食が用意されていて、暖かいもてなしを受けました。

オルギンに着く頃はもう暗くなっていましたが、先に到着した一団から「オーレーオレオレオーレー！ リベルター・デ・ロス・シンコ（5人の自由を勝ち取ろう！）」と歌とダンスで出迎えを受けました。後でわかったことですが、彼らはアメリカで5人の解放のための活動している「フリー・ザ・キューバン・



会場となったエキスポ・オルギン

ファイブ」のメンバーで、集会会場でもひととき目立って雰囲気
を盛り上げていました。自国政府が引き
起こしている不正義に対し声を挙げる彼らの姿にアメリカとい
う国の幅の広さを感じました。

1日目、エキスポ・オルギンにおいて全体集会が開催され、ア
ランコン人民権力全国会議議長の談話がビデオ上映されました。
その中で彼は「5人は無実だ。彼らに何か罪があるとすれば、た
だ一つ、祖国を愛している
ということだ」と語りまし

た。キューバ人がキューバを愛し、キューバを守るために行動した、
そのことがキューバに敵対心を持つアメリカでは罪に問われるとい
う、この問題の不条理さと本質を的確に示す言葉だと思いました。

午後は地域ごとに分かれての分散会でした。私の分散会はアジ
ア・オセアニア・中東地域で、韓国、イラン、オーストラリア、ス
リランカ、ベトナムなどからの参加者、それにICAPからアジア・
オセアニア担当のリゴベルトさん、家族を代表してアントニオ氏
のお姉さんのマルチさんが加わりました。冒頭、リゴベルトさんから、
具体的な活動として「アメリカ国内からの抗議が最も有効なので、ア
メリカにいる友人に積極的に働きかけること」「インターネット、ウ
ェブ、フェイスブック、ツイッターなどの最新技術を活用して5人の
解放のための情報を発信すること」が提起されました。

続いて、マルチさんが「アメリカには自由を保障している憲法があ
る。アメリカ政府は、その憲法を自ら踏みにじり、5人の態度を変え
させようと躍起になっている。ここで行われている活動は5人の一日
も早い解放にきつとつながる」と話されました。続いて参加者から
の発言があり、中東地域からの参加者から出された「中東地域はイスラ
エルから日常的に圧力をかけられていて、子どもまでが不当に拘束さ
れている。5人に連帯する活動は自分たちにも力を与えている」との

発言がとても印象的でした。確かに不当なことや不正義が世界中で無数に行われているのだらうと思
います。そうした中、「5人の英雄」ために世界中で多くの人が立ち上がり声を挙げていること、それだけ
の活動を組織しているキューバという国の存在に、改めて目を瞠る思いがしました。

翌日は午前中に植林事業が行われ、野原に用意された果樹の苗木を植えました。



アジア・オセアニア・中東分散会



アントニオ氏の姉・マルチさん

愛しき祖国よ

あなたを想うとき
美しい空のもと
陽気な街角を歩いている気持ちになれる

あの海辺はどんなに僕を楽しませ
平和と癒しを与えてくれたことだろう
星のペールに包まれた夜の海辺
今もあの日のまま目の前に見ることが出来る

親愛なるすばらしき人々
魅了してやまぬ僕のふるさと
あなたは誠実な証人
僕がどんなに幸せに生きてきたか
あなたは雄弁に物語る

残虐な仕打ちを受けている今この
ときさえ
あなたの大いなる面影が
より強く僕の心をとらえる

アントニオ・ゲレロ





私が植えた木が丈夫に育つといいな
…

午後は専門部会が開かれ、報道部門、法律部門、芸術部門に分かれて討論するということでしたが、私はどの部門にも該当しないので、芸術関係者の討論を傍聴しました。

集会の合間にリゴベルトさんに聞いたことですが、今回のオルギン会議には58カ国から300人以上が参加しましたが、第1回の会議の参加者は8カ国、14名だったそうです。それだけでも5人の解放運動が世界中で確実に広まっていることを実感しました。

会場の書籍コーナーで、“穴”と呼ばれる独房でアントニオさんが祖国や家族への想いや闘う決意を綴った詩集を買い求めました。つたない訳ですが、その中から一編を紹介します。

世界に広がる「連帯の力」を実感～オルギン会議に参加して～

村上久美子（福島）

全体集会や分散会での議論や発言に限らず、バス移動や会場のロビーで合間に交わされる会話もまた意義深いものがある。

休憩時間に、私に話しかけたそうにしている人にこちらから「Hola」と声をかけると「数年前、フィデルの80オバースデイイベントにも参加したが、そこに2人の若い日本の女の子がいたのだが…」と言う。それで思い出した。スペイン語の理解がイマイチで、よく集合時間に遅れてバスに乗り損なっていた、あのカナダ人だ。

「それ、私よ！」

「わお、わお、わお！」

4年ぶりの再会である。今回も言葉で難儀していたようだが、それでも懲りずにやってきた「カナダじいさん」の情熱に敬意を表して熱烈なアブラッソ&ベシットを交わした。ニューヨークから来たというジェームズはキューバ人の祖父を持つアメリカ人でスペイン語も堪能。「僕はジェームズ。スペイン語読みならハイメだ」とスマートに自己紹介した。

昼食どきで、会場のレストランにキューバの国民的シンガー、シルビオ・ロドリゲスがBGMで流れていた。数ヶ月前、シルビオがアメリカでコンサートツアーを行った折、ステージから「ノーベル平和賞受賞者のオバマ大統領。5人を返してくれ」と呼びかけたというニュースを思い出して、「あなたもシルビオのコンサートに行った？」と聞いてみた。「もちろん」とジェームズが言う。「フリー・ザ・キューバン・ファイブの仲間と一緒に客席で5人の横断幕を掲げたんだ。そしたら、シルビオがステージから僕たちに手をさしのべ連帯のジェスチャーをして、それからあの発言をしたんだよ」。

ジェームズの行動がシルビオに伝播し、シルビオの行動がニュースとなって、日本で私がキャッチしたというわけだ。

世界各地から一つの目的、「5人の解放」のためにキューバに集まった人たちと交流していると、時間も距離も、点ではなく“面”で繋がっていることを実感する。こうした繋がりが、アメリカが5人に対して行っている不正義のみならず、世界のあらゆる不正義を包囲する力になっていくように思えるのは、楽観的に過ぎるだろうか。

最後になりますが、こうした貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

世界中に広がっている「5人の英雄」の解放運動に確信を持って、「アメリカに囚われている五人のキューバ人の解放を求める日本百人委員会」の活動を進めなければならないとの思いを改めて強くしました



4年ぶりに再会したカナダじいさん